

第3回 健康づくり推進協議会 会議録

開催日時 及び場所	令和6年3月13日(水) 午後1時00分から1時35分まで 白馬村役場 庁議室					
出席者	職名	氏名	出欠	職名	氏名	出欠
	大北医師会	栗田裕二	出	白馬村保健補 導委員長	長澤草子	出
	大北歯科医師 会	柏原政信	出	白馬村シニア クラブ連合会	横川義男	出
	白馬村議会	増井春美	欠	白馬村スポー ツ協会 会長	山岸 忠	出
	大町保健所健 康づくり支援 課	大久保初恵	出	長野県栄養士 会 栄養ケア ステーション	田中 みつる	出
	白馬村教育委 員会事務局 子育て支援課 課長	内山 明子	出	公募委員	山里 鈴子	出
	白馬村健康福 祉課 課長	工藤弘美	出	公募委員	前田千恵	出
説明者	事務局	健康づくり係長 稲垣 まゆき		健康づくり係 畔上 瑞季	健康づくり係 横川 友美	
要旨	<p>開会(午後1時00分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局が、開会を宣言した <p>1. 会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局が会長に司会をお願いした 会長が協議事項について読み上げた <p>2. 資料確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局が、委員に会議資料の確認をお願いした <p>3. 協議事項</p> <p>(1)パブリックコメント結果・庁内意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> 会長が、この事項に関する説明を事務局に求めた 事務局は、パブリックコメントについて村民から意見がなかったことを伝え、庁内からの意見として(当日資料 別紙1・2-1・2-2)を説明した 会長が、事務局の説明について質疑を求めた 質疑がなく計画について承認いただき、次の議題へ移った 					

(2) その他について

- ・会長が、この事項に関する説明を事務局に求めた
- ・事務局は、審議が終了したとして計画を村ホームページに公表することを宣言した。また、委員の任期は2年であるが今後の会議の予定はないことを伝えた。任期中に協議会での審議が必要な場合、臨時的に会議を行うと説明した
- ・会長が、事務局の説明について質疑を求めた
- ・会長がせっかくの機会なので意見・感想を求めた
- ・柏原委員が、薬剤師会が来ない理由を事務局に質問した
- ・事務局は、委員の定員を12名に決めた関係で、薬剤師会が入っていないと説明した。しかし、多重服薬の問題もあるため薬剤師会が参加することも今後検討していきたいと述べた
- ・栗田副会長が、コロナの感染者がなかなか減らず、高齢者施設での感染拡大が見られている。コロナは症状が多様で発熱症状のないものもあるため、委員も十分に健康管理に留意してほしいと述べた
- ・会長が、スポーツを通じた健康づくりを年齢で分けすることなく、包括的に取り組んで欲しいと述べた。例えば、子どもと高齢者が一緒になってゲートボールをして世代間交流を含めた機会を作るのはどうか、と提案した
- ・長澤委員が、自身の役職が保健補導員になっているため、健康づくり推進員に訂正するよう述べた。活動を振り返り、健康づくり推進員の任期を経て大変勉強になったと述べた。コロナで地区活動が長く制限されていたが、今年度活動が復帰して、集まった住民から楽しかったという声を頂いた。次の役員にも活動を引継ぎ、健康づくりを広げていてもらいたいと述べた
- ・田中委員が、長野県栄養ケアステーションでは生活習慣病の予防、郷土料理や地産地消の推進、フレイル予防として共食を勧め活動していると説明した。私事で先月ぎっくり腰をして動けなくなってしまい、足腰の筋肉の重要性を感じた。村民が気軽に運動に参加できる機会を設けてほしいと述べた
- ・山里委員が、年代や所属、運動・栄養・医学と分野を分けて活動するのではなく、村を総合大学のように考え、健康づくりに関する単位を修得した住民は、健診の補助を受けることができる、といった工夫をしてはどうかと提案した。こどもから高齢者まで参加できる取り組みをすることで包括的に住民の健康度を高めることに繋がると述べた
- ・前田委員が、3回の会議を通して運動・医療・栄養それぞれに課題があり、村民が理解し合える環境づくりが必要であると意見を述べた。生涯スポーツや体を動かすことが重要であるが、年を取ってからいきなり運動を始められるものではない。幼少期から運動に楽しく参加できるような環境づくりが求められている。教育委員会やスポーツ協会など縦割りで活動が分かれているが、村一丸となって協力して世代間での運動格差が生まれにくいような環境づくりに注力していただきたいと述べた
- ・横川委員が、白馬村の65歳以上高齢者が2700人、シニアクラブでは会員数約1300人、実際の活動人数は300～400人であると説明した。活動を楽しんでいることが

健康に繋がると述べた。仲間づくりや社会奉仕を生きがいとして活動している人が多い。先日、村内の100歳代住民で計算問題を30問正答した人がいると聞いた。スポーツや寄り合いだけではなく、認知症予防と家事技術の向上のためにも男の料理教室を開催して欲しいと述べた。

- ・大久保委員が、長野県では信州総合保健医療計画を作成しているが、県民へ周知する難しさを感じていると述べた。また、計画を立て、どう動かしていくか課題である。行政と住民組織が両輪で健康づくりを広げていけたら良いと考えている。今回の会議に参加したことをきっかけに、地域での活動を進めていってほしいと述べた
- ・会長が、進行を事務局へ移した
- ・事務局は、長澤委員の標記を健康づくり推進員と訂正し、ホームページに掲載すると述べた

閉 会（午後1時35分）

- ・会長が、審議に対する感謝を述べたうえで、閉会を宣言した

検 印